

# 一般財団法人市川市福祉公社

## 令和元年度第2回 介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日時： 令和元年11月19日（火） 午前10時00分～午前11時00分
2. 場所： i-link ルーム 1会議室
3. 出席者 25名

### 〔委員〕

議長 高久 悟  
委員 小笠原 一彦  
四ツ屋 真由美

以上 委員 3名

### 〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課 1名  
高齢者サポートセンター市川第一 1名  
高齢者サポートセンター市川第二 1名  
高齢者サポートセンター市川東部 1名  
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1名  
高齢者サポートセンター信篤・二俣 1名  
高齢者サポートセンター宮久保・下貝塚 1名  
大学教授 1名  
居宅介護支援事業所 2名  
訪問介護事業所 2名

以上 オブザーバー 12名

### 〔事務局〕

常務理事 林 芳夫  
事務局長 今井 真希  
事業部長 内野 智美  
当該事業管理者 館山 史陽  
巡回ヘルパーステーション 主任 豊崎 邦幸  
計画作成責任者 澤村 泉 藤田 健治（司会）

以上 事務局 7名

### 〔公社職員〕

3名

以上 公社職員 3名

## ■ 開 会

- (1) 事務局より資料の説明を行う
  - ・令和元年度 第2回 介護・医療連携推進会議資料
  - ・自己評価・外部評価表
  - ・相談内容
  - ・利用者一覧
- (2) 市川市福祉公社常務理事より挨拶
- (3) 委員、オブザーバー紹介
- (4) 事務局紹介

## ● サービス提供等状況報告・相談受付状況について

<事務局 藤田>

- ・レジュメに沿い R1 年 5 月～10 月の相談件数等を報告した。

<四ツ屋委員>

- ・随時が減ってよかった。別件だが、ガン末期のターミナル案件についてサービスに繋がらなかった経緯があった。親族もいる方で、このサービスを知っていれば介入できた可能性もあった。ケアマネージャーへの周知を頑張してほしい。

<小笠原委員>

- ・相談件数の 21 件中、行徳エリアは何件あったか。

<事務局 澤村>

- ・2 件あった。他事業所の事業撤退時の引継ぎ時に関わったケアマネージャーからの相談。

<高久議長>

- ・状況が変化してきている印象。数の変動が大きいことに関して逝去や入院以外の理由はあるか。時期的なことは関係しているか。

<事務局 館山>

- ・事業開始当初から利用されていた方の逝去等、比較的長くこのサービスを利用されていた方の逝去や入院が続いたことに加え、介護度も高かったことが影響している。併せて、新規の方の介護度が 3 以下で訪問回数もそれまでの方より少ないことから、数の変動が大きくなったと言える。気候など時期的なものが関係しているかどうかは分からない。

<高久議長>

- ・厚労省のデータから鑑みても全国的に注目されている事業である。需要との関係もあるので企業努力だけではどうにもならない部分もあるかと思う。市川市内で 2 事業所がこの事業を行っているが、限界がある。南部地域の事業者選定の進行状況について福祉政策課にお聞きしたい。

<小笠原委員>

- ・9 月 12 日に公募をかけたところ、南部地区 1 事業所の事業提案を受け審査を行ったが 2 次審査の基準を満たせず、残念ながら選定に至らなかった。

<高久議長>

- ・再募集はかけるのか。

<小笠原委員>

- ・今年度の再募集はない。

## ●自己評価・外部評価

### ①構造評価

<事務局 藤田>

- ・自己評価・外部評価表に沿い、構造評価に関して報告した。

<四ツ屋委員>

- ・自己評価の通りできていると思う。

<小笠原委員>

- ・2点改善されていることは良いと思う。情報機器導入とのことだが効率化に役立っているのではないかと思う。具体的にどのようなものか。

<事務局 館山>

- ・これまでは紙の記録簿と事務所の介護ソフトによる情報共有だったが、記録簿を原則廃止しタブレットを持参、タブレットから入力をするとう実績が事務所の介護ソフトに反映されるというような仕組み。タブレット間だけで申し送り事項を共有できる。

<高久議長>

- ・具体的に改善されている点を教えてほしい。

<事務局 澤村>

- ・理念は会議等で浸透されてきている。複数回短時間というこのサービスの特徴や、これまで慣れ親しんできた日中の訪問介護サービスとの違いについても都度ヘルパーへ説明し、認識を共有できつつある。

### ②過程評価

<事務局 藤田>

- ・自己評価・外部評価表に沿い、過程評価に関して報告した。

<四ツ屋委員>

- ・前回同様できていると思う。独居の認知症の方で外に出てしまわれる方への対応や利用者の生活に合わせた対応等、よくできていると思う。

<小笠原委員>

- ・このまま継続して頂きたい。

### ③結果評価

- ・自己評価・外部評価表に沿い、結果評価に関して報告した。

<四ツ屋委員>

- ・モニタリングでの満足度も高くとてもよくできている。

<高久議長>

- ・このサービスに関して市へクレームはあるか？

<小笠原委員>

- ・無い。

<高久議長>

- ・項目 32 に関して、継続的な課題になっているが、任意評価ということもあり敢えて取り上げる必要性はあるかどうか。正直なところ、地域社会での問題点を探すのは難しいと思う。PR に努めてはいるもののそれが街づくりに貢献していることになるのかどうか難しい所だ。

<小笠原委員>

- ・福祉のまちづくりという観点からはフォーマルサービスの範囲と考えられるが、実際のサービス提供の観点からは難しい部分が多いと思う。評価としてどうのではなく、事業所と行政の役割分担という視点もあるかと思う。お互いの弱い点を補い合って進めていければいい

と思う。

<高久議長>

・インフォーマルサービスをケアマネージャーへ提案していくこと等も一案ではないだろうか。

## ●事例検討

### ①事例検討

<事務局 豊崎>

・レジュメに沿い事例検討内容を発表した。

<四ツ屋委員>

・導入時にカンファレンスに出席しているケース。外に出てしまったり、不定愁訴によりヘルパーがなかなか帰れない等、一人ではいられない方。定期巡回で頑張ってくれているが、そもそも在宅が難しいケースと感じる。

<高久議長>

・事業所としては限界を感じているか？

<事務局 澤村>

・このケースの場合、本人の「家に帰りたい」という意志を尊重して、後見人が病院から家に戻している。今後はグループホームへの入居が決まっている。導入当初は対応困難な場面もみられていたが、現在は通報機も活用できており、食欲も戻ってきている。

<小笠原委員>

・チームワークで臨んでいる。他の困難ケースもみていると思うがなかなか上手くいかない事もあるかと思う。スタッフが疲弊しないようにしてほしい。

<市川第一>

・ケースについてよく理解できた。

<信篤・二俣>

・ケースについてよく理解できた。

## ●オブザーバーからの意見

<SOMPO ケア>

・コール機の定着を図った事例がある。困難ケースであったが老健入所となった。  
・ICT 導入のデメリットはあるか。

<事務局 館山>

・タブレットと介護ソフトの連動が実績のみに限定されている点。

<テレサ会>

・S・T 様に関して、高齢者世帯で主に服薬確認で定期巡回を利用している。事例検討はとても勉強になり、特に通報機の活用に関して参考にしたい。

<市川市福祉公社>

・R・T 様に関して、定期巡回を利用している。早朝と夜間対応の事業所が無く困っていたところに定期巡回を提案、在宅生活ができていることに喜んでいる。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

・次回介護医療連携推進会議予定 令和2年5月19日（火）10時～

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社

事業1課 巡回ヘルパーステーション 藤田